

日本天文学会 早川幸男基金による
渡航報告書

*Multi-Wavelength Observations of Coronal
Structure and Dynamics*



バンケットにて。左から2人目が私

私は、2002年1月21日から24日にかけて開催された研究集会「Multi-Wavelength Observations of Coronal Structure and Dynamics」で研究発表をするため、ハワイ島コナへ行って来ました。この研究集会は太陽観測衛星「ようこう」の打ち上げ10周年を記念するために行われ、各国から130名程の太陽物理学者が一堂に会し非常に充実した会となりました。私は、ようこうで得られるX線データや京都大学飛騨・花山天文台で得られる可視光線像、他の観測機器で得られる多波長観測データの解析を中心に、太陽表面で観測される活動現象の発生メカニズムを解明すべく研究を進めています。今回は、太陽フレアの進行に伴うエネルギー解放の場所の推移とエネルギー解放効率の空間的・時間的变化についての研究結果を口頭発表しました。この研究はようこうを含む5つの異なる観測波長データを用いており、ようこうの観測成果とその応

用研究としての高い意義があります。

この研究集会での発表がポスターから口頭へと変更になったのは集会の1週間前で、その準備のため出発前は戦場のような慌しさでした。また現地に着いてからも、国際的な研究集会で英語で発表する経験がないという緊張と不安と、それでもこの大きなチャンスに対する期待感が入り混じり、会期中はずっと興奮しっぱなしでした。いよいよ発表!! 緊張でカチコチになりながら壇上に上がりました。しかし、前日から懸命に考えていた冗談が意外に受け、その後の気分は一気に軽くなりました。私の英語は非常にたどたどしかったのですが、それが結果的に聴衆の方々に「聞き取ろう」という姿勢を促したようで、楽に発表できたように思います。内容については、発表後に多くの方にコメントをいただきました。有難いことに多くはお誉めの言葉、研究の新たな発展を生むようなアドバイスなどです。早速帰国後にそのアドバイスを基に研究を進展させており、その結果はいずれ学会等で発表できるものと思います。そして、私の発表内容は、なんと、本研究集会でのハイライトとして取り上げて頂きました。このことは私自身への自信となり、また今後の研究への非常に大きな励みとなりました。

最後になりましたが、このような貴重な経験を援助して下さった、日本天文学会早川幸男基金関係者の皆様に深く感謝致します。当初9月に行われる予定であった本会議は、先の世界同時多発テロの影響で一時は中止という危機に立たされました。結局は、運営スタッフの皆様の尽力のおかげで1月21日からの日程に延期され無事に行われたわけですが、その間にも早川基金関係者の方々から暖かい励ましのお言葉をいただきました。本当にありがとうございました。

浅井 歩 (京都大学)